

平成29年度 京都府立舞鶴支援学校行永分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>学習指導要領や学校教育の重点に基づく指導と実践に努める。</p> <p>1 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の教育支援計画の活用を図り、一人一人のニーズに応じた指導・支援を推進する。 ○ 医療・関係機関との連携を図るとともに専門性の向上に努める。 <p>2 学力の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個別の指導計画に基づき、基礎・基本を重視する授業の創造に努める。 <p>3 心身の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 心身の状態を的確に把握し、家庭や医療と密な連携を図り、計画的・効果的な自立活動や教科指導の充実に努める。 ○ 基本的な生活習慣を確立させるとともに、命を大切に作る心、相手を思いやる心等、豊かな人間性を育む心の教育を推進する。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分校統合直後の混乱が予想されたが、児童生徒の教育活動は比較的円滑に進めることができた。 ・ 転入生の増減に対し、全職員で協力して教育活動を遂行できた。 ・ 新施設を有効に利用できた。 ・ 諸会議の運営を適切に行えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統合1年目で確認できた指導体制の課題について、各部署において検討し解決に向けた取組を進める。 ・ 研究授業を実施し、授業改善を図るとともに優れた授業実践を継承していく。 ・ 障害の重度化・多様化に対応した専門性の向上を目指す。 	<p>1 保護者・医療・前籍校・関係機関等との連携を深め信頼される学校づくりに努める。</p> <p>2 授業改善を図るため、児童生徒の実態を把握するとともに、研究授業に取り組み、より良い実践を目指す。</p> <p>3 新学習指導要領についての情報を迅速に入手し、周知徹底を図る。</p> <p>4 児童生徒の病状や実態に応じたキャリア教育を進め、社会生活への移行を図る。</p> <p>5 児童生徒・職員にとって、安心・安全な学校づくりを進める。</p> <p>6 本校の教育活動と特別支援教育の啓発に努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	① 組織的・機能的な学校運営を行う。	・ 学部で取り組むこと、部門で取り組むことを明確にし、組織的・機能的に運営する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組体制の基盤づくりが次年度に向け整理された。 ・ 情報管理の徹底は遂行されたが、防災研修を充実させる必要がある。 ・ 医療との連携で児童生徒が安心安全に学ぶことができた。参観日の出席率が低く、保護者への啓蒙活動を粘り強く行っていく必要がある。 ・ 職員の健康管理の研修を開催できた。
	② 防災教育、危機管理に取り組む。	・ 防災に関する研修や避難訓練を行い、危機管理意識を高める。	B		
	③ 情報管理を適切に行う。	・ 個人情報の取扱、文書の作成・整理、保管は規定に基づいて処理する。	A		
	④ 舞鶴こども療育センター、舞鶴医療センター、保護者、前籍校、関係機関等との連携を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の健康状態を把握し、医師や看護師等と丁寧な連絡調整を行う。 ・ 参観日や懇談会、その他 PTA 行事への参加を呼びかけ保護者や前籍校、関係機関等と密に連携を図り、教育活動を発信する機会とする。 	B		
	⑤ 業務改善に取り組み、校務内容の効率化を図る。職員の健康管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務分担を工夫し、仕事の平準化を図る。 ・ 校内の安全点検を実施し、危険個所を根絶する。 ・ 頸肩腕腰痛防止の研修会を実施する。 	B		

教育課程・ 学習指導	① 学習指導要領の趣旨を踏まえて、学校の特色を生かした教育課程の編成・実施・評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図るとともに、授業改善のための研究・研修を充実させる。 個々の教育的ニーズを把握し、個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、個に応じた指導・支援を実施する。 新学習指導要領についての情報を的確に把握し、職員全員が共有できるよう研修に努める。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究部が中心になり研究授業の機会を持つことができた。個に応じた指導の実践を心掛け、学部内で協議を重ねた。 新学習指導要領については次年度も引き続き研修に努める。 タブレットを活用する環境が整った。 委員会活動の充実により、達成感や感謝の気持ちを持つことができた。 前籍校との連携や関係機関との調整で進路希望の実現につなげることができた。 衛生指導は月別目標を設定し取り組むことができた。実技を含む研修により、実践指導に生かすことができた。
	② 情報機器及び視聴覚機器を活用し、児童生徒の学習意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器、視聴覚機器を授業の中で効果的に活用する。また、支援機器の活用にも努める。 	A		
	③ 社会性や自己管理能力を育てるよう自立活動や教科・特別活動の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりや助け合いの心を育て、児童生徒が安心して生活し、学ぶことができる環境をつくる。 自己肯定感や達成感を育てる取組や活動を工夫する。 	A		
	④ 自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒個々の目的意識を高め、進路希望の実現に向けて、校外学習や体験学習、進路学習を計画的に実施する。 	A		
	⑤ さまざまな人権問題の理解に努め、自他を尊重する態度や実践力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の学級活動等を充実させるとともに身近な問題を題材にした人権学習を適切に実施する。 	A		
	⑥ 健康安全に関する基礎的な知識を基に総合的な認識を高める保健指導を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の衛生指導に取り組み、感染防止に努め、安全に学校生活を送れるよう指導する。 心の安定を図るため、生活のリズムを大切にし環境への適応能力を高める指導を行う。 	A		
保護者・ 地域・ 関係機関 との連携	① 医療との連携を基盤に、児童生徒の実態を的確に把握し、就学・教育相談の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに応え、関係諸機関との連携を図り、短期サポートを実施し、センター的役割を果たす。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 医療、福祉機関との連携に努め、円滑な対応ができた。 交流校や地域の方々と交流する機会を持ったが、地域からの協力をさらにいただけるようにしたい。
	② 交流及び共同学習を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> 居住地校、交流校、前籍校などと新たな取組を模索し、活発に交流を図る。 	A		
	③ 地域の人材資源を活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞会などを通して地域の方から指導・助言を受け、学校への協力の充実に努める。 	B		
学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒たちを取り巻く環境が複雑化・困難化する中で、学校は関係機関と連携を図りながら教育活動を展開している。また、児童生徒の病状や障害に適切な指導を努めている。 児童生徒の満足度も高く、細やかな指導が実践されている。 児童生徒の転出入が増える傾向にある。関係機関との情報を共有し、より良い実践につながることを期待している。 				
次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 重度重複、準ずる教育の教育課程を実践するうえで、新学習指導要領についてさらに研修を深める。 「道徳」「外国語活動」の授業及び評価について研修を深める。 防災に関する研修を深め、危機管理意識を高める。 タブレット端末や情報機器を利用する授業の推進に向け、情報収集を行ったり研修会を持ったりする。 職員の健康やコンプライアンスの向上に向け、職場の環境づくりに努める。 				